



学校便り 8月号

かけはし

薩摩川内市立里小学校 薩摩川内市里町里 1601 TEL 09969-3-2008
発行 令和7年8月21日 責任者 校長 永野 俊也

学校HP



学校ブログ



里周辺海水温
32℃(8/13)

五穀豊穰・無病息災呼び込むカエル！ 躍動する大蛇

カズラタテと、戦後80年を考える

校長 永野 俊也



パーぷらぷー♪ガンガラガン 1年で一番里がにぎやかになるこの日が今年もやってきました。里の通りにあふれる若者の多さに、みんなが元気になる。そんな気がしました。この祭りも次の世代が引き継いでいってくれればきっと大丈夫！そういう思いもわいてきました。

今年は年甲斐もなく、祭短パンにサラシを巻き、顔塗りたくってもらい、カズラの先導一翼を担わせていただきました。先導なのに何度か飛ばされてしまいましたが、それでもケガなく終わることができ、なによりでした。こんな楽しいお祭り、全国に知れ渡ってほしいとも思いました。

夏休みも残り 10 日程となり、子供たちも2学期を視野に慌ただしくなっているのではないのでしょうか？今年の夏も異常な暑さが続き、その余波は、新学期まで続いていきそうです。各家庭におかれましても、子供たちの暑気順化対策を考え、残りの日々を過ごさせていただければと思います。

それから今年は戦後 80 年という節目の年でもあります。戦乱の止まない世界情勢の中、子供たちが再び戦禍の只中へ歩んでしまう事がないよう、過去から学ぶことをやめてはいけないと強く思いました。そしてこの夏、次の本を一気に読みました。

沖縄戦終焉時のドキュメンタリー

生と死の岐路

塩田甚志 著



昨年亡くなられた、里村郷土誌の著者である甚志先生が残された沖縄戦の実録。学徒動員で戦車隊に配属されるものの法律を勉強していたこともあり、憲兵学校を勧められ、軍警察である憲兵として、沖縄に投入されたこと。最初に上陸した渡嘉敷島は、不意を突かれた米軍上陸により、布陣していた特攻艇震洋部隊 300 艇は、出撃もできないまま人員もろとも壕内で爆殺。パニックに陥った軍は、「非戦闘員は、自決せよ」と命じ…。これは、本土上陸作戦が実行されていれば、甌島も同じ命運をたどっていたと思える内容でした。甚志先生は、慶良間から、沖縄本島そして徳之島と配置転換され、そこで終戦を迎え生を得ました。

その間の沖縄戦の惨状、軍司令部が「～生きて虜囚の辱めを受くることなく、悠久の大義に生くべし。」と自刃しましたが、降伏、投降を認めない軍は、民間人を巻き込みながらその後も多くの犠牲者を増やし続けます。一方憲兵隊長である萩之内大佐は、軍司令の意に反し(憲兵であるがゆえに、ジュネーブ条約等捕虜の扱いに関する国際法の知識が後押ししたと思われる)民間人とともに投降し、その後多くの同胞の命を救っていきます。



甚志先生のドキュメントでは、戦争の間の中にも人としての姿を見つめるものでした。戦後 80 年、まだまだ「知ること」をやめてはならないと思いました。

慶良間諸島
渡嘉敷島 ↓



今年度の運動会(荒天時)の日程について

今年度の運動会の荒天時の日程について、例年と異なりますのでお知らせします。

今年度は21日(日)に実施予定ですが、当日が荒天の場合は順延ではなく、23日(火)に延期となります。その際は22日(月)は登校日となり、26日(金)が振替休日となります。23日(火)も荒天の場合は24日(水)以降に順延となります。

給食を停めている都合上、実施日がずれてもずれなくても、弁当が必要な日があります。弁当が必要になる日の考え方は次の通りです。

21日(日)に実施→26日(金)
23日(火)に実施→22日(月)
24日(水)以降実施→22日(月)と26日(金)

保護者の方にはご負担をおかけしますが、御理解と御協力の程よろしくをお願いします。

なお、このような日程といたしましたのは、延期日も休日実施とすることで、少しでも多くの方々に子供たちの頑張る姿を見ていただきたいとの考えによるものです。御理解の程よろしくをお願いします。

9月行事



- 1日(月) 始業式・大掃除・身体計測
- 3日(水) 委員会活動
- 4日(木) 生活リズム指導週間(～10日)
ALT来校
- 5日(金) 幼小中行動運動会練習
- 8日(月) 純心大インターンシップ(～12日)
- 10日(水) ALT来校
- 11日(木) かのこゆり号来校
- 12日(金) 幼小中合同運動会練習
- 16日(火) スクールカウンセラー来校
ALT来校
- 17日(水) 幼小中合同運動会予行
- 18日(木) 幼小中合同運動会準備(5,6校時)
- 21日(日) 幼小中合同運動会
- 22日(月) 運動会休養措置日
- 23日(火) 秋分の日(運動会予備日)
- 30日(火) ALT来校



もやーどに行きました!

7/15(火)に、3・4年生のふるさとコミュニケーション科の学習で「もやーど」を訪問しました。

今年も子供たちが考え準備したゲームなどを入所者の方々と一緒に行い交流しました。

司会なども自分たちで行い、3・4年生なりに一生懸命考えながら取り組みました。

子供たちも高齢者の方々と触れ合い大変良い経験ができたと思います。

写真は、黄色いビニールの中央にあいた穴に、紙コップを落とすゲームです。周りでビニールを持っている仲間とビニールを上げ下げしながら紙コップを中央に集めて行きます。すわったままでもできるので、子供と入所者の方々と協力し楽しむことができました。



今月の付録 里ことば の ひみつ

～ 里村の暮らしをひもとく ～ (その1)

次に掲載しているのは、里小150周年記念誌に収録させていただいた、昭和50年当時小学4年生、大井いづみさんの詩です。村のことばについて、とっても微笑ましく書かれていて、当時が偲ばれます。

昭和五十年三月 詩文集「たまいし」より	とつても楽しい 村のことばで話すと お友だちと 村のことばをつかいたい わたしたちは笑うだろうか よその人は笑うだろうか わたしたちのことは わたしたちが笑っている ことばもちがっている 大阪から来た女の子の よそのことばで話される 先生たちは とつてもちがう わたしの村のことばは よそのことばと	ことば 四年 大井 いづみ
------------------------	---	------------------------

今月は、その 里ことば についてふれたいと思いますが… まずは、島外出身の私にとって???の体験からお話します。

甑島に来て1年目のことです。2年目から銚突き漁師を目指していた私は、師匠をさがすべく地元の方にいろいろ訪ねてみました。そして多くの方が「ギーちゃんがいいよ。」というので、ギーちゃん? あっ義人さん ということで、早速弟子入りして、2回ほど漁に同行させていただいたときのことです。

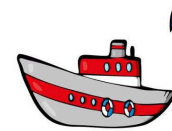
船の上で休んでいた私に対し、海に浮かんだ義人さんから「OΔ* *□*◇とつて」と言われ、「えっ? なにか、とつてって言うてる? これ? それともこれ?」と右往左往… 結局どれもハズレで、義人さん自分で船に上がって道具をとつて、再び海に入っていけました…。 なんとも不甲斐なし、と自分のことを感じてしまいました。

それから里の方は優しいから、よその人には日頃わかりやすく話されてるんだなあ～など感じるようになりました。漁師の大先輩方が、互いに話されている会話など、最初の頃は、ほぼ意味不明。最近になりようやく大筋つかめるようになってきましたが、里ことば その歴史と文化を含め、恐るべしとつくづく感じました。

そんな私にとって、とても頼りとなる本が、八幡神社の先の宮司 日笠山正治 さんが編纂された

西海の甑島、
里村のことばと暮らし

です。



その中から、いくつか話を拾ってみましょう。

【戦時中学童疎開の様子から】

そんならあ、疎開のと一きん はな一しぼすいがぞ。アキマルん甲板にゃあ 木の枝ばいっぴゃあ乗せて、島んごと しとったさいどあ。
戦争の真っ最中のことやいさいでえ。クシキネえちいて、そいから ヤマサーキまで、汽車あ乗って行ったさいどあ。

それなら疎開の時の話をするよ。昭丸の甲板には木の枝をいっぱい載せて、島のように[偽装]していたよ。戦争の真っ最中の事だからねえ。串木野について、それから山崎まで、汽車に乗っていったんだよ。

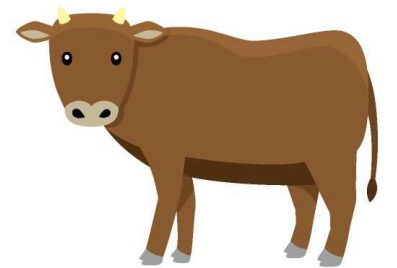
(*昭丸は当時の汽船 山崎は現在のさつま町で当時は鉄道が通っていました。)

疎開が始まった昭和20年5月頃は、すでに米潜水艦が甑海峡に姿を現わし、海上封鎖がなされていました。どうやって子供たちを運んだのだろうか? と思っていましたが、これはとても貴重な証言だと思いました。

【当時飼われていた牛の様子】

牛ゃあ 利口なもんやいどあ、坂ミー千ば登とつても、勝手え ワガいの畑んとこいで 止まって、後から登ってきい 飼ゃあ主ば 待とつたあ。
もどいも、さっさとさーきい歩いて、ワガいの牛小屋ずい まっすぐやったあ。

牛は利口なもので、坂道を登っていても、勝手に我が家の畑のところで立ち止まって、後から登ってくる飼い主を待っていたよ。帰り道も、どんどん先に歩いて、我が家の牛小屋まで、まっすぐだった。農耕の助けとして飼われていた牛と、飼い主の関係がほのぼのと目に浮かびます。

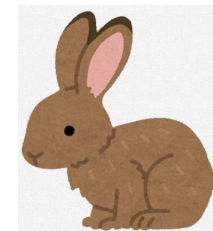


【先生と小学生(女子)との会話】

先生が「ウサギは何をしますか?」て聞きゃたいば、オナゴン子が「ゴソは種付けします」て 言うたちゅうたあ。

先生が、「ウサギは何をしますか?」と聞かれたら、女の子が「ゴソ(兎)は種付け(交尾)します」って言ったそうです。

当時の小学生は、ほとんどがお家でゴソ(兎)を飼っていて、兎に子を産ませて増やしていたそうです。ですからこの回答は当然なのだから…



里ことば のこの本、会話の中に当時の生き生きとした生活が浮かび上がってきます。 もうしばらく、この本から、里村の暮らしを眺めてみたいと思いました。

(つづく)

* 追録 小学生は何のために兎飼っていたの? まっまさか食べるため??? この疑問、カズラタテの日に 休丸さんや巖さんに聞いてみました。「そうそう、兎みんな飼っていたよ。兎の糞をニワトリが食べるの。」なんと竹で編んだ兎小屋の床から、ぼろぼろ落ちる兎の糞、それを下に住んでるニワトリがつついて食べるためだそうです。兎は草を食べ、その糞はニワトリの飼料(ごはん)となり、その卵は人の食卓を潤す。なんともエコな当時の生活が見えて、嬉しくなりました♪ (今の小学生にも教えてあげたい!)

